

令和6年度 横浜市学校開放管理システム
再構築プロジェクト管理業務

次期学校開放管理システムの概要説明

令和7年1月22日

アビームコンサルティング株式会社



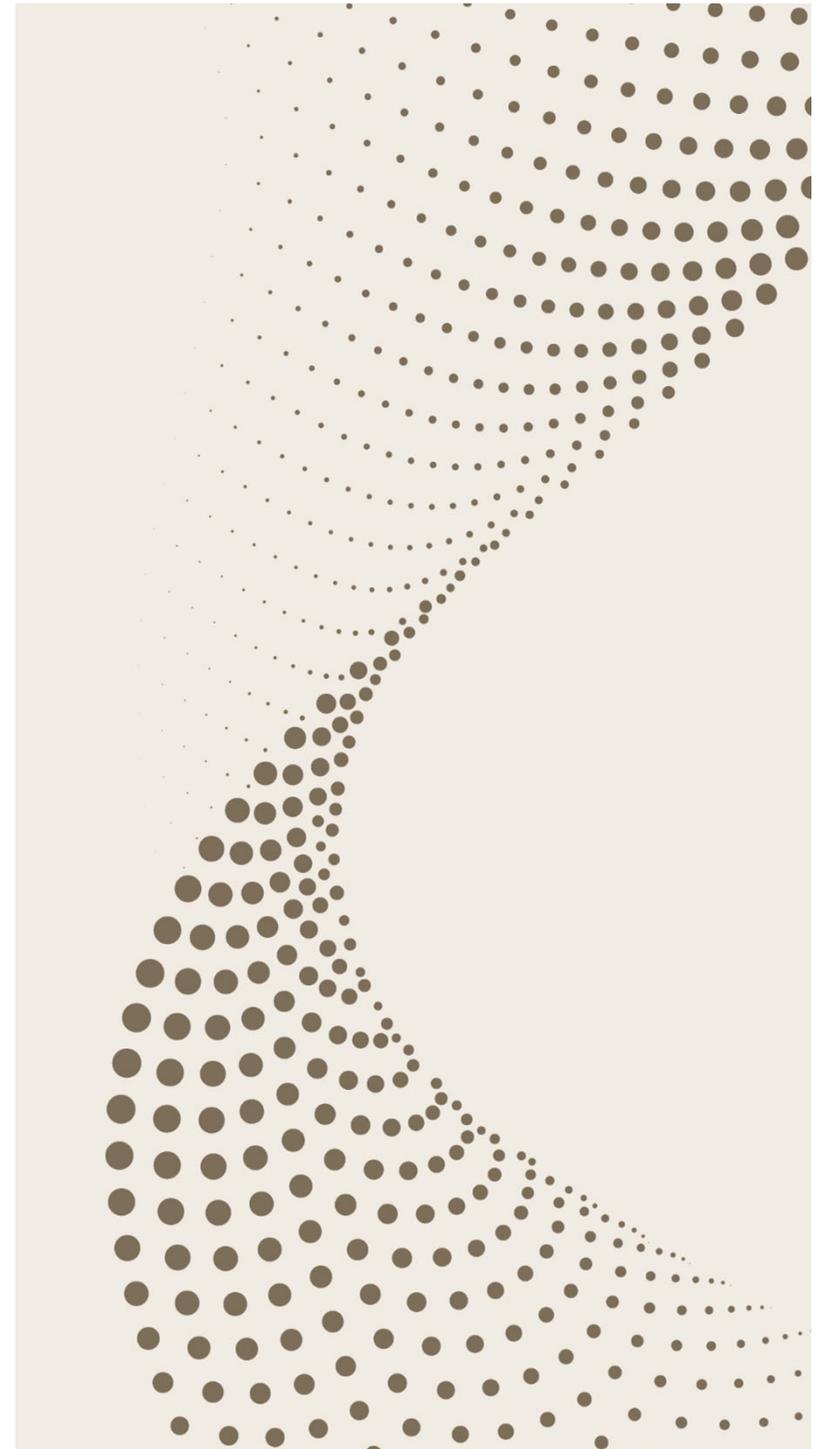
Build Beyond As One.

目次

- 1. 次期学校開放管理システム導入の背景**
 - 1.1. 学校開放事業におけるシステム利用
 - 1.2. 次期システム導入に向けた検討
- 2. 次期学校開放管理システムの主な変更点**
 - 2.1. 業務・システムの範囲
 - 2.2. システム構成の変更点
 - 2.3. 現行システムからの具体的な変更点



1. 次期学校開放管理システム
導入の背景



1. 次期学校開放管理システム導入の背景

1.1. 学校開放事業におけるシステム利用

- 学校開放事業において、平成19年から使用している「横浜市立学校開放予約管理システム（なかまなび）」（以下、現行システム）は**令和7年3月にサービス提供期間が終了し、使用できなくなります。**
- 後継となる次期学校開放管理システム（以下、次期システム）では、引き続き**利用団体の利便性向上**といったシステム利用の目的を掲げ、インターネット上での**予約受付や抽選機能、帳票出力機能等**を提供します。

学校開放事業におけるシステム利用の目的

システム利用の目的（平成19年～）

- 利用団体の利便性の向上、文化・スポーツクラブの自立化支援
- 学校開放事業の公開性向上、公平な利用の促進

令和7年3月に稼働開始
現行システムと同様の機能に加え、
利便性向上のための機能も追加

現行システム（なかまなび） **令和7年3月にサービス提供終了** **次期システム**

現行システム（なかまなび）

横浜市立学校開放予約管理システム

横浜市立学校開放予約管理システムを利用する

アクセシビリティ対応画面を利用する
パソコンの操作に不慣れな方 音声ブラウザをご利用の方

パワーユーザー対応画面を利用する
パソコンの操作に慣れている方 システムを頻りにご利用になる方

システム利用時間

予約や抽選の申し込み	8時30分～24時00分
施設の空き状況や施設情報の照会	24時間

システムバックアップのため、午前4時ごろ一時的にご利用になれない場合がございます。

動作保証されているOS及びブラウザの組み合わせは、「よくある質問」QⅢ-3 4ページ目をご覧ください。

携帯電話からもシステムをご利用できます。右のQRコードをご利用ください。

https://yoyaku.nakamanavi.city.yokohama.lg.jp/m/

使い易サポート

利用の手引き 操作ガイド

よくある質問 動画版操作ガイド

学校開放の利用にあたって

学校開放は、学校教育活動に支障のない時間帯に、学校施設を地域住民の文化・スポーツ活動に活用するものです。そのため学校行事や都合等によっては利用できない場合もあります。また、利用するためには会員登録が必要となります。会員登録の方法は、利用の手引きをご覧ください。

横浜市立学校ホームページ
学校施設活用型コミュニティハウス
校夜間照明実施校
市民図書室実施校
特別教室実施校
学校開放事業関係様式

学校開放関連のリンク

(PDF)のファイルをご覧になるにはAdobe Readerが必要です。お持ちでないときはアドビのサイトでダウンロードしてからご利用ください。

ログインはこちらから

利用番号
※横浜市立学校ID

パスワード
※横浜市立学校ID2文字以内

ログインする

パスワードを忘れた方はこちら

ログインせずに空き状況を確認

施設検索

1

申込の種類を選択してください

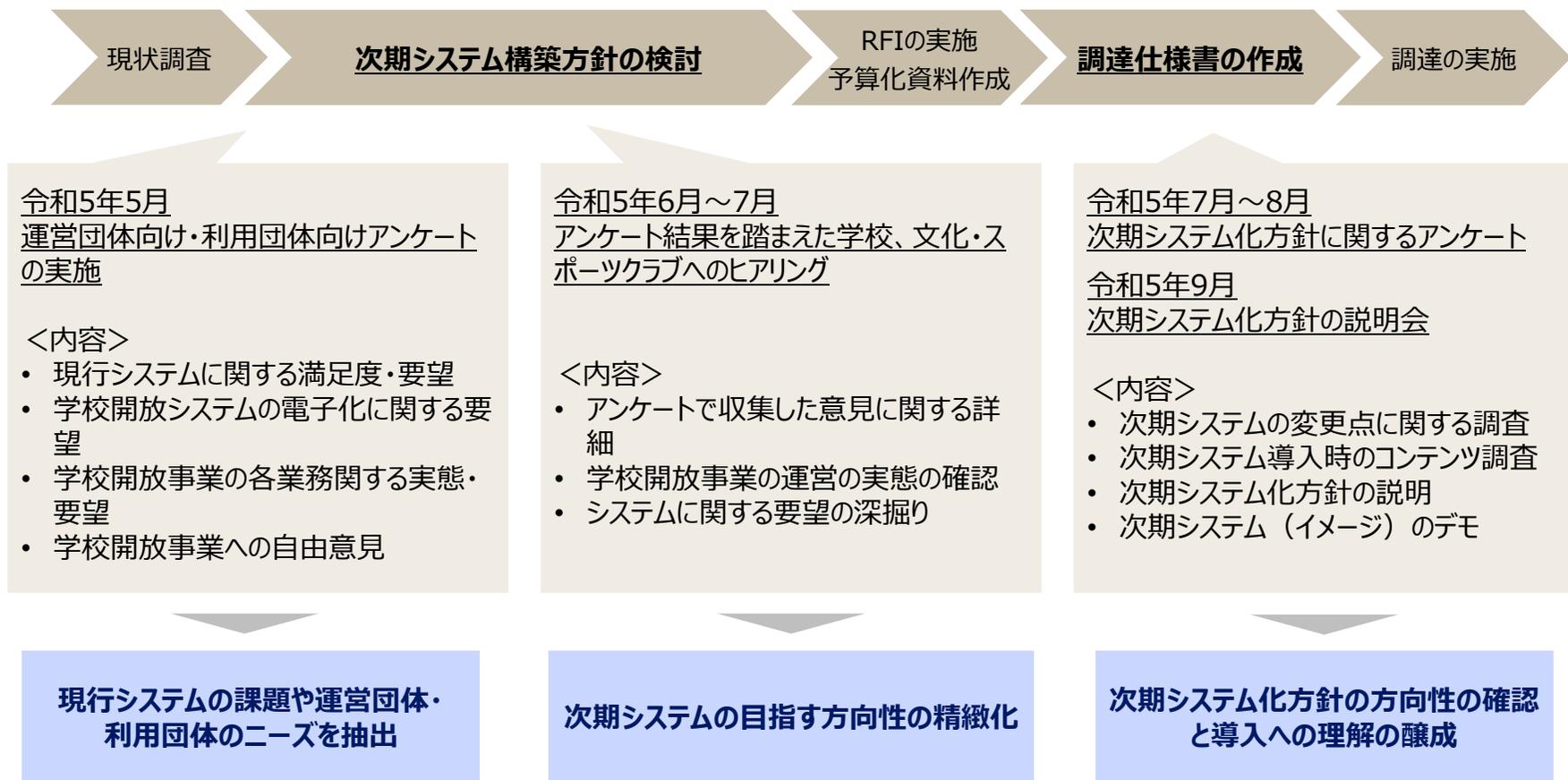
施設の空き照会/予約申込 抽選申込

1. 次期学校開放管理システム導入の背景

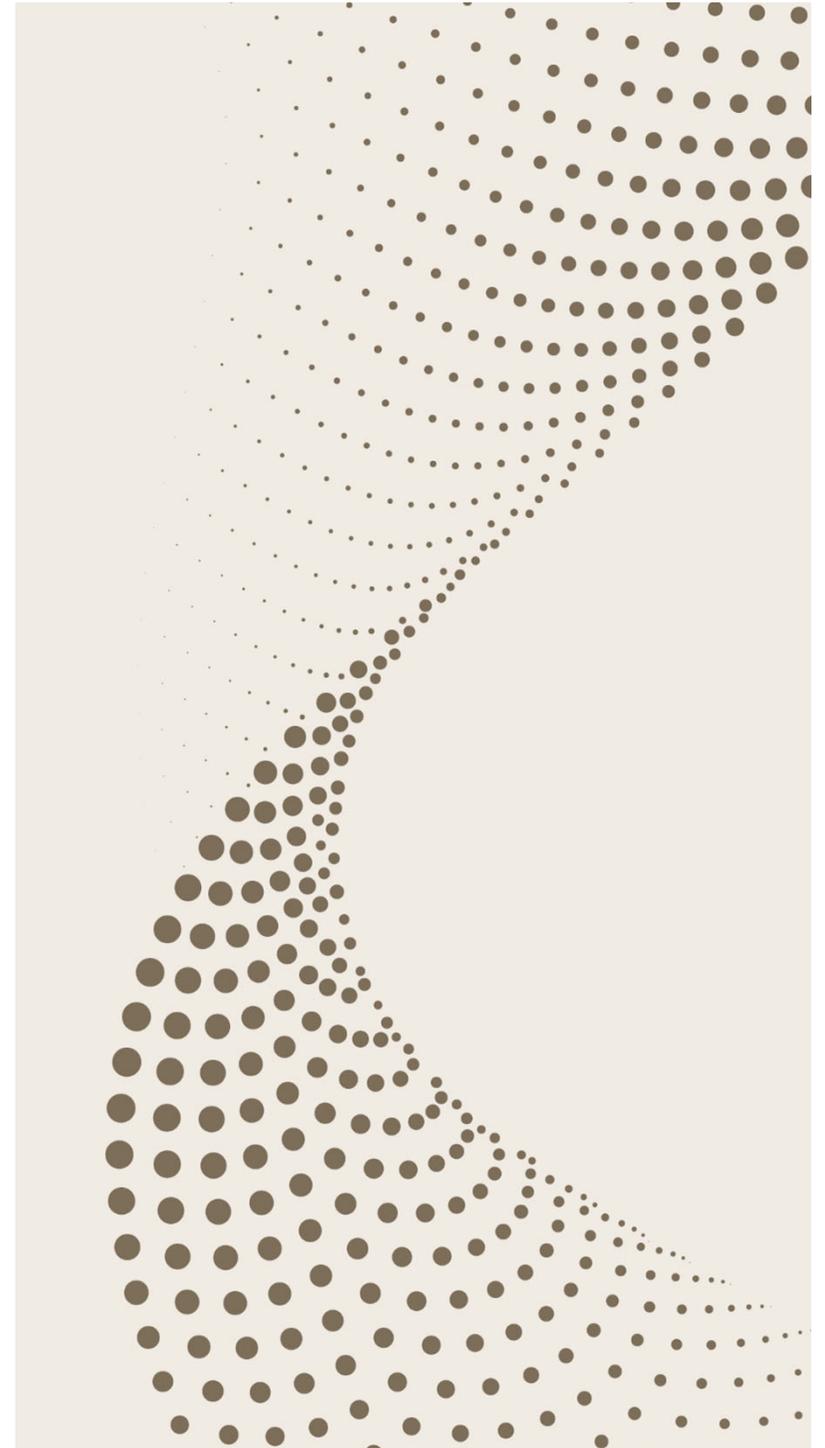
1.2. 次期システム導入に向けた検討

- 令和5年度には、次期システム導入に向けた検討を実施するため、学校、文化・スポーツクラブ、利用団体の皆様に、アンケートによるニーズ調査等にご協力いただき、次期システムの要件を整理しました。
- これらの整理結果を踏まえて次期システムの構築事業者を選定し、令和6年度4月より構築を進めています。

次期システム導入に向けた令和5年度の検討内容



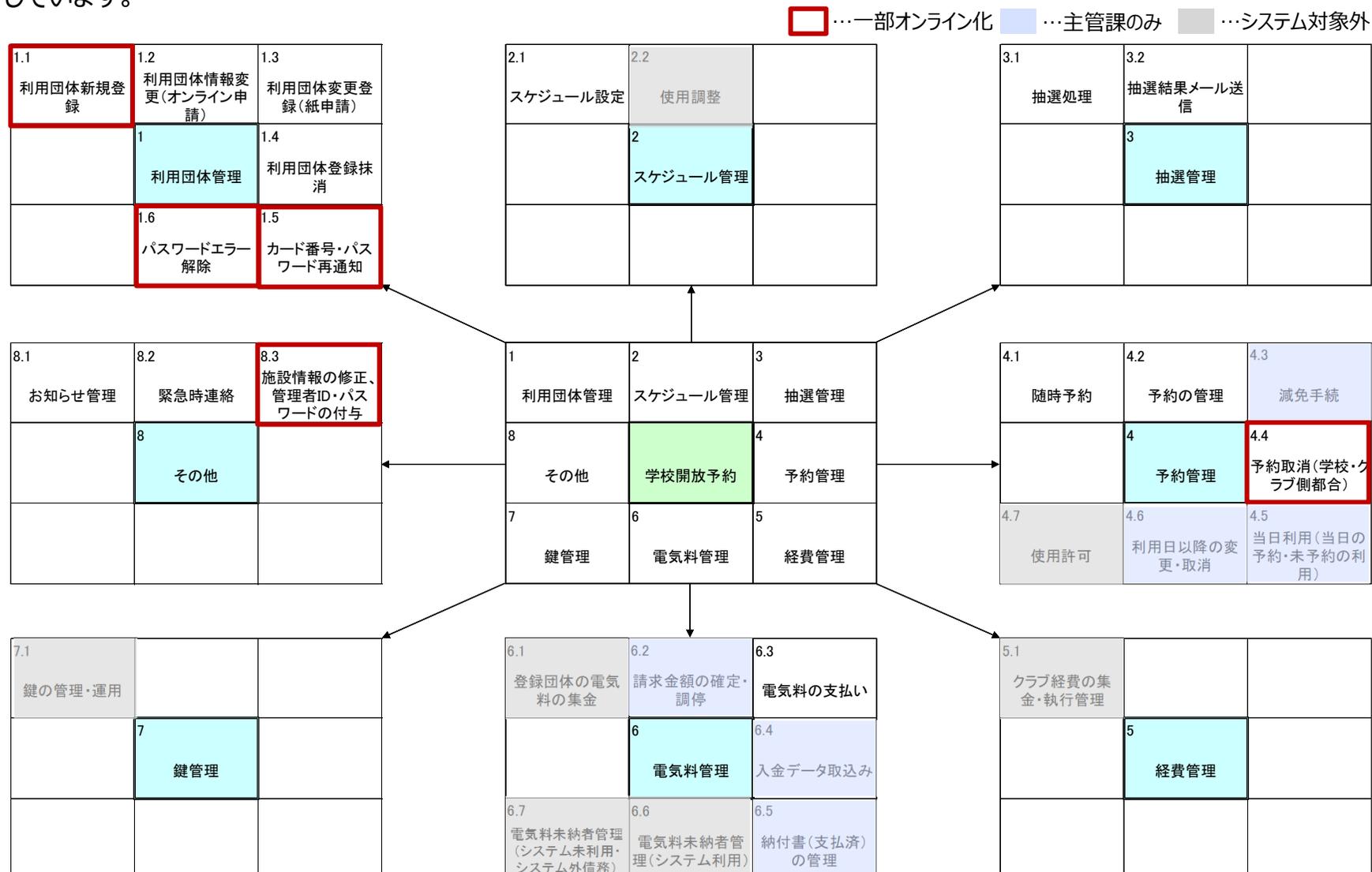
2. 次期学校開放管理システムの主な 変更点



2. 次期学校開放管理システムの主な変更点

2.1. 業務・システムの範囲

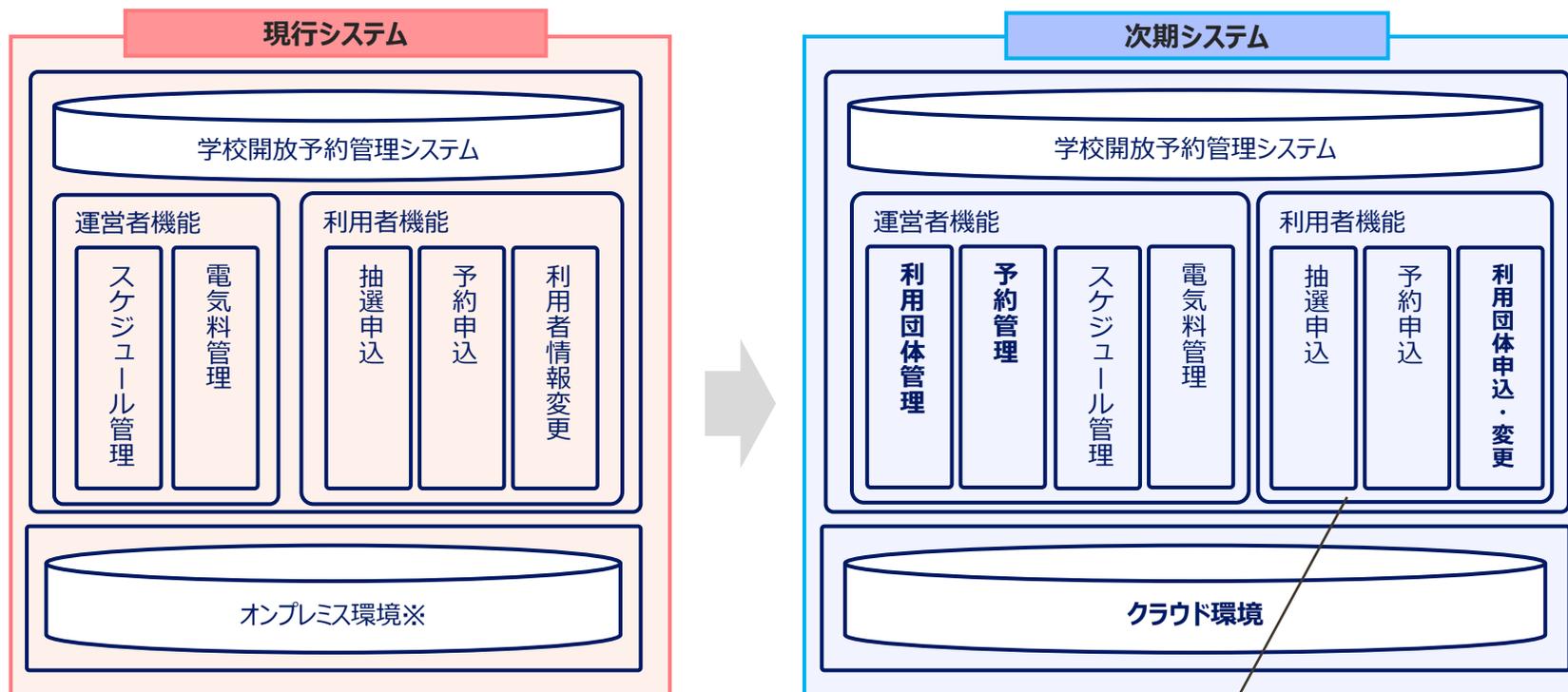
- 下図に「運営者機能」の構成を示します。次期学校開放管理システムでは、赤枠の業務について一部オンライン化しています。



2. 次期学校開放管理システムの主な変更点

2.2. システム構成の変更点

- 現行システムからの変更点として、①物理的な制約が少ないクラウド環境へ変更となること、②利用者機能についてはPCだけでなくスマートフォンからも確認しやすい画面表示になることが挙げられます。



※ オンプレミスとは、システムの稼働やインフラの構築に必要なサーバーやネットワーク機器などを保有し運用するシステムの利用形態です。物理的な制約から運用に係る人件費が高止まりする等のデメリットがあります。

★スマートフォンからも確認しやすい画面表示へ



2. 次期学校開放管理システムの主な変更点

2.3. 現行システムからの具体的な変更点

- 業務別に現行システムからの具体的な変更点を以下に示します。

現行システム

次期学校開放管理システム

運営者機能 ※後程ご説明

利用団体管理

△ 紙による申請手続き

- 紙の申請書に記入された情報を別途システムに登録する必要があり、クラブによる承認から本登録までに時間を要している。



✓ 利用団体登録のオンライン化

- 利用団体の登録内容の変更・削除がクラブの権限でも可能になり、申請書の提出が不要となる。

予約管理

△ 複雑な運用や紙による手続き

- 学校やクラブ都合により学校開放を中止する場合、学校・クラブが利用団体に連絡し、予約取消手続きを行ってもらう必要があり、双方に手間。
- 空調利用の場合は別途主管課への報告が必要となり、負担が生じている。



✓ ユーザビリティの向上

- 学校やクラブがシステム上で予約取消を行うことで、連絡の手間を減らすことが出来る。
- システム上で、空調利用料金の入力が可能になることで、主管課への報告作成の負担が無くなる。

利用者機能 ※操作マニュアル（利用者）を参照

利用団体申請

△ 紙による申請手続き

- 利用団体に関する登録内容を変更したい場合、一部の情報については、学校・地域連携課へ紙による申請が必要になり、手間がかかる。



✓ 登録内容変更のオンライン化

- 利用団体に関する登録内容をシステム上で確認でき、利用者種別等を除くほぼすべての情報をオンラインで変更可能になり、申請の手間が無くなる。

予約管理

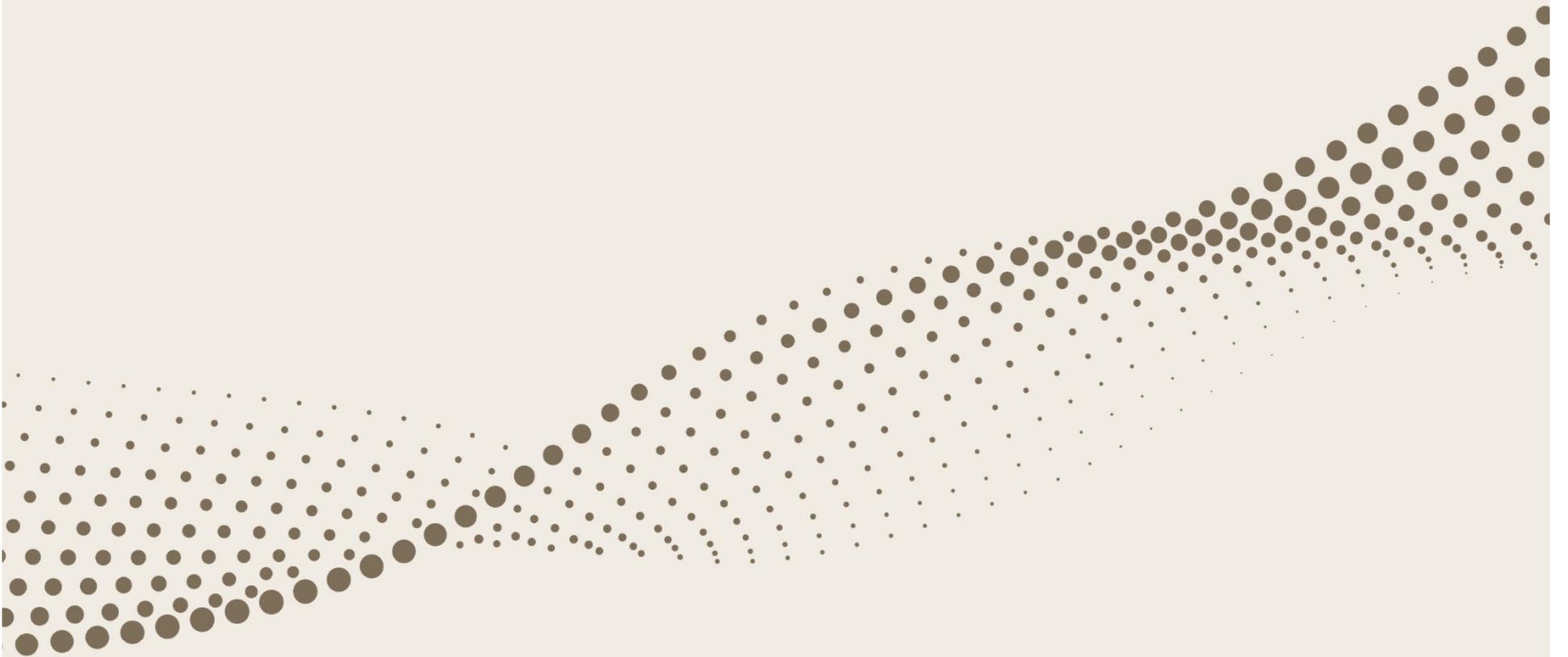
△ システム確認の手間

- 申込内容の確認をしたいときにシステムを毎回確認する必要がある。
- 利用したいコマが埋まっていた時に、キャンセルが発生したかどうかについてシステムを都度確認するのが手間となる。



✓ ユーザビリティの向上

- 申込時にメールで通知されることにより、システムを確認する手間を減らすことが出来る。
- 利用したいコマが埋まっていた場合には、キャンセル待ち登録ができ、予約可能な場合にはメールで通知される。



アビーム、ABeam及びそのロゴは、アビームコンサルティング株式会社の日本その他の国における登録商標です。
本文に記載されている会社名及び製品名は各社の商号、商標又は登録商標です。 ©2025 ABeam Consulting Ltd.



Build Beyond As One.